



やろ舞い大祭
20周年

第23回にっぽんど真ん中祭り

もんでまっしどまっし
勝ち大賞受賞受賞

みんなで作ろまい
大口町のみんなと楽しむまい

8月26日(木)
29日(日)

創意工夫で 新たな境地を

大口町を代表するお祭りのひとつである「やろ舞い大祭」。毎年9月の第2土曜日に開催される踊りの祭りで、小さなかわいらしい子どもから元気なベテランの踊り手までを含む約50チームが参加。すっかり大口町の夏の風物詩として定着しています。近年は、全国有数の踊りの祭りの一つに数えられ、愛知県南の端や他県からの参加者もこぞって集まる行事に成長しました。

そんなやろ舞い大祭が、今年で20周年を迎えました。残念ながら去年に引き続き今年もコロナ禍のためやむなく中止に。これまで雨で中止になったことが20年の中で一度だけありましたが、今回のようないつ終息するのかわからない事情で開催を断念することは誰にも予想できなかったことでした。なにしろ、やろ舞い大祭といえば、ステージに立つ踊り手たちはもちろん、観客も一体となって掛け声を掛け合い汗を飛ばしながら躍動するのがお約束。また、会場内の「食おまい横丁」では、グルメやグッズの買い物を楽しむブースがずらりと並び、3000人もの人出



15



11



9



16



12



17



13



10



18



14



8

総踊り曲リニョール!

で賑わうのです。昨年に引き続き、今年も泣く泣く断念しましたが、イベントの性質上、この先もコロナ禍が終息するまで完全な形の再開は絶望的と思われました。

やろ舞い大祭の起源は、平成9年に結成された「大口町まつり創生研究会」。町全体で盛り上がるお祭りを作ろうと議論を重ね、平成12年に前身である「やろ舞い祭」を立ち上げ、その後、平成14年にやろ舞い大祭の第1回が開催されました。そして、祭りが100年先まで続いていくようにと運営も実行委員会形式に。運営団体は平成18年に「やろ舞いプロジェクト」として大口町のNPO団体に登録されました。

第1回から参加し、今はプロジェクトの中心メンバーとして活躍する大森正太郎さん(35)は、20年間やろ舞い大祭に並々ならぬ想いを注いできた1人。よさこい踊りとの出会いは、大口中学校3年生の時によさこいチーム「さくら連」が中学校に踊りを教えるにきてくれたときのことです。みんなで一つのものを作り上げる魅力にすっかり引き込まれ、その年の夏の商工会の「ふれあいフェ



2019年のやろ舞い大祭

スティバル」で初めて一緒にステージに立ちました。高校1年生のときに正式にチーム「あさぎ」の一員に。それ以来、やろ舞い大祭に毎年参加しています。第10回から総踊りの司会進行をまかされるようになり、それがきっかけで運営にも携わるようになりました。

昨年中止が決まり、「何か代わりにできることはないか？」とプロジェクトメンバーで話し合った末、翌年迎える20周年の記念に総踊りの曲をリニューアルすることに。コロナ禍で実際に人が集まることが不可能な中でも、できるだけ多くの人に関わって参加してもらうことにこだわり、「みんなでやろ舞い！」という企画名でホームページ、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックなどSNSを駆使して新しい歌詞を募集しました。歌詞の内容でこだわったのは、「大口町



大森正太郎さん

の良さが伝わること」、そして「子どもにもわかりやすいこと」。去年の秋に募集をかけたところ、全国津々浦々の方から、延べ120点ほどの応募がありました。

歌詞が決まったところで、メロディーはよさこいの曲をはじめ、多種多様な曲を手がけるプロの作曲家、石山一郎さんに、振り付けは全国各地で踊りの振り付けを手がけ、かつてはやろ舞い大祭のステージで一緒に踊っていた佐藤大地さんに依頼しました。とりわけ大口町の未来を担う子どもにも好きになってほしいという願いが込められ、楽しくわかりやすく、リズムにのりやすい素敵な曲に仕上がりました。曲名も10月末に決定。総踊りはYouTubeで公開しているので、大口町の皆さんで応援してください!!

プロモーション映像に挑戦!

ところが残念なことに、この総踊り曲を披露するはずだった20周年の今年度もコロナ禍



が収まらず開催中止に。再び準備期間がまるまる空白になったため、それならばと、踊りのプロモーション映像を制作しようという流れに。今年度は毎年8月に名古屋で開催される大規模なよさこいまつり「につぼんど真ん中祭り（通称どまつり）」が、現地参加とオンライン参加のハイブリッドによる、その名も「テレどまつり」として開催されることになったため、やろ舞いも満を持してオンラインの部で映像参加することにしました。

「実は、動画編集は初めてで、まずは動画編集ソフトを購入するところからのスタートでした。いちから勉強して、毎日夜中まで頑張りましたよ」と大森さん。とにかくたくさんの人たちに関わってもらって、みんなで力を合わせて作り上げたものにしたいとの想い



総踊り新曲

さぁ 今からはじめよう！ 両手広げてやろ舞い！
準備はオッケー！ 最高！
今日はお祭り たまには騒ごうぜ！

春には 桃色の花びらが 五条川染める
出会いと分かれ くり返して 涙と笑い声
いつものその匂い「ただいま」が言える この故郷は
少し おしゃれして歩いた道 今も変わらない 町並み

※1
でら いい町だもんで こしに手を当て踊るだがね
あなたの HAPPY もみつかるよ！
大口町 そりゃあ素敵な町だぞ！

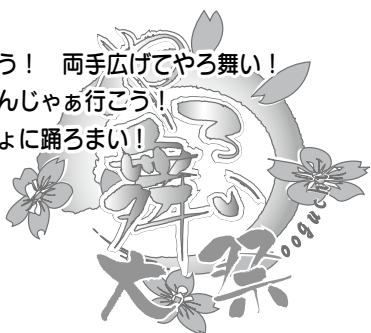
※2
愛知県だよ 大口町！ Big と Mouth で大口町！
じいちゃん ばあちゃん こどもも おとなも
そろって でら大口だがね♪
I LOVE 大口♥ We LOVE 大口♥
だもんでおれたち バンバンザイ！
ケッタで行くだか!? なぁ～んかあるかも 大口町
いつものこの時間 鳴りひびく お屋のサイレン
少し照れくさいけど あの人さそって一緒に踊ろう

※1 くりかえし

さぁ まだまだ続けよう！ 両手広げてやろ舞い！
準備はオッケー！ ほんじゃあ行こう！
タリラリラ♪ いっしょに踊ろまい！

※1 くりかえし

※2 くりかえし



から、曲全体をいろいろなチームの踊りでリレー方式でつないで完成させることとしました。コロナ対策のため、撮影場所は11か所に分散して撮影隊が出向いて撮影することに。撮影は夏真っ盛りの暑い時期に堀尾跡公園や小口城址公園など町内各所でおこなわれ、最終的に14団体、延べ160人余りの参加による、心と心でつなぐ温かくフレッシュな動画に仕上がりました。「今まで関わりがなかった団体さんともつながることができたのが、今回の収穫です。このご縁を大切にして次につなげていきたい」と大森さん。

若い世代にバトンをつなげていきたい
やる舞いチームは、「2021日本ど真ん中祭り」で、400もの参加チームの中から見事「テレビどまつり楽しんだもん勝ち大賞」を受賞しました。今回の参加で、実際の祭りの準備運営とは違った形で活動を生み出したやる舞いプロジェクト。団体の「あり方」について立ち止まって考える機会にもなりました。大森さんは「『誰でも参加でき、大口町全体で盛り上がりがるさとの祭りを100年先まで』という目標を掲げて今まで走り続けてきましたが、20年の節目を迎え、これ

からの新たなあり方についても考えるときがきたと思います。奇しくもこのご時世に遭遇し、ただ踊っているだけの行事では遅かれ早かれこの先に限界が訪れるのではないかと感じています。100年続いていくためには若い世代への継承も課題です。この先は、祭りをやることだけにこだわらず、いろいろなことにチャレンジすることが必要。その足掛かりが今回の新曲作りや動画作りで得られたように感じます。何をするかはこれからですが、やる舞い大祭の強化につながるような新しい活動を開拓していきたい。今回「縁ができた

団体の皆さんの活動からヒントを得たいと思います」と力強く決意を語ってくれました。ピンチに負けない柔軟な心気もぜひつないでいってほしいですね。これからの時代にしなやかに寄り添っていく「新生やる舞い」に注目していきたいと思います。